

豆田町並み通信

第93号

発行者
豆田町
伝建保存会
2年11月

豆田への観光客やや復活か！

今年の五月以降十月までの半年間は、豆田まちづくり歴史交流館の入館者数を調査しました。

コロナの影響が一番甚大だったのは、ゴールデンウィーク中で、入館者はゼロに近い数字となっており、五月全体でも前年比で一%にも満たない数字になっています。

(表五月の合計数を参照)

また、外国人の入国制限が始まった三月以降の数字を見ると、昨年千五百名を超えた外国人の入館者は本年はほぼゼロとなっています。この傾向は十一月以降も続きそうです。しかし、今年九月のシルバーウィーク以降観光客は増加傾向にあり、九月の数字を見ると昨年比五十%を超えるまでに回復しています。

豆田まちづくり歴史交流館入館者数(令和元年・2年の5月～10月)

地域	日田市	大分県※	福岡県	九州※	国内※	外国	合計
令和2・5	3	2	14	2	0	0	21
"2・6	6	57	119	33	26	2	243
"2・7	12	31	89	27	16	0	175
"2・8	22	63	204	39	38	0	366
"2・9	29	86	334	135	83	0	667
"2・10	36	93	302	101	87	0	619
期間計	108	332	1062	337	250	2	2061

令和1・5	70	243	933	354	689	267	2,556
"1・6	91	81	417	182	282	402	1,455
"1・7	65	94	341	149	253	417	1,319
"1・8	19	87	460	207	309	182	1,264
"1・9	68	98	481	267	251	120	1,285
"1・10	122	143	493	258	369	131	1,516
期間計	435	746	3,125	1,417	2,153	1,519	9,395

大分県※は日田市を除く、九州※は大分・福岡を除く、国内※は九州を除く



7割方観光車両で埋まった月隈駐車場。宮崎・鹿児島ナンバーも見られた。



人通りも戻ってきた豆田魚町通り (写真はともに10月25日撮影)

また、十月からは8・コロナレールの浸透でクーポン券を持ったお客も増え、土曜・日曜の飲食店では昼食時には列を作っている姿が見られました。豆田の観光客相手のお店では「このままコロナが終息して観光客が増えたら面白い」と期待を語ってくれました。



古写真に見入る来館者

日田市制八十周年記念 水郷日田の風景展開催
十月二十四日(土)より十二月二十七日(日)までの期間、上城内町のアオーゼ三階にて、「水郷日田の風景展」が開催されています。
これは、市制八十年を記念しての企画展で、日田市の暮らし、産業、観光、教育など明治から昭和の戦後期までの写真を中心に展示しています。
通りの風景では豆田の上町通り・御幸通り・三本松通り・寿通りなども展示されています。訪れた高齢の来館者は自分たちが育った戦前戦後の写真を懐かしそうに眺めていました。
主催者の日田市立博物館の行時志郎館長は「多くの市民から提供を受けた思い出の写真を多数展示していますので是非ご来館下さい」と語っていました。

先哲慰霊祭は開催

十一月七日（土）、丸山町公民館にて恒例の先哲慰霊祭が開催されました。

今年はコロナの影響を受けて天領まつりの主行事は中止となりましたが、オンラインイベントである先哲慰霊祭は、三密を避けて、日田まつり振興会の正副会長と主催者の豆田地区振興協議会の自治会長のみが参加して行われました。

挨拶に立った橋本会長は「コロナ禍ではあるが、日田の繁栄の基礎を作った先哲を慰霊する事が、私たち日田市を継承する者の責務であると考え」として先哲への顕彰の言葉を述べました。

この後、西光寺住職の読経に併せて参加者は先哲の偉業に思いを馳せて、焼香を行いました。



先哲慰霊祭で顕彰の言葉を述べる豆田地区振興協議会の橋本会長

作文コンクール受賞者決定!

豆田地区振興協議会が主催する「咸宜園教育遺産世界遺産登録推進小学生作文コンクール」に咸宜小九十一名、桂林小六十二名計百五十三名の応募があり、審査の結果最優秀賞一点、優秀賞三点、努力賞十点が選考されました。

受賞者は十一月七日（土）の「先哲慰霊祭」のなかで表彰されました。受賞者は以下の通り

- 最優秀賞 元松 れい (咸宜小)
- 優秀賞 二宮 悠羽 (咸宜小)
- 伊藤 りり子 (咸宜小)
- 綾垣 穂莉 (桂林小)
- 努力賞 手島優衣 (咸宜小) 村野瑚夏
- (〃) 飯田陽大 (〃) 藤原玲未 (〃) 梶原百花 (〃) 中野陽菜 (〃) 宇野和奏 (〃)
- 伊藤愛華 (〃) 三重野ひな (桂林小) 吉田華蓮 (〃)



丸山町公民館で行われた「表彰式」で受賞を受けた皆さん

みゆき通り商店街金券ブレイク事業開始!

みゆき通り商店街では、十一月より来年の一月末までの期間で、買い物すれば「金券」がもらえ、他店では現金として使用出来る「日田金券（ひたがねけん）」イベントを始めました。

このイベントは同商店街加盟の二十三店舗が、買い物額に応じて「百圓金券」を発行するもので、企画した仙崎雅彦さんは「今まで知らなかったお店を巡る事で商店街の魅力に気付いて欲しい」と企画の意を話してくれました。

みゆき通り商店街の高倉喜久夫会長は「この企画は商店街の有志が補助金に頼らず出来る事は無いかと考えたもので、このイベントがコロナ禍で落ち込んでいる売上増加と商店街の活性化の一助になれば有難いです。」と語ってくれました。



参加店を示すポスター

第三十八回天領日田おひなまつりは開催

十月二十七日、市役所において、「天領日田おひなまつり」実行委員会が開催され、まつり開催の是非について審議が行われました。

事務局より、豆田と隈で行われた「おひなまつり」に対する意向調査で百二十一名中八十六名の七十一%が開催してほしいとの結果が報告されました。

委員会では審議の結果、コロナ感染症対策の徹底を図る事でまつりを開催する事が了承されました。

すでに同時に開催される「ひなまつりマラソン」が、規模を縮小して（参加人員は最大千人、 HALFと10kmの二コース）実施される事になっており、日田の観光経済の活性化が期待されています。



市役所で開催された第1回実行委員会